

## 文化都市ナントとラ・フォル・ジュルネ -日本で広がるフランス発の音楽祭-

パリ事務所

ラ・フォル・ジュルネ (La Folle Journée) は、フランス北西部のナント市<sup>1</sup>で、1995 年に創設されたクラシック音楽祭で、毎年、1 月下旬から 2 月上旬には、ナント市の住民のみならず、フランス各地からも人が訪れています。

また、ナント市は、2009 年から新潟市と姉妹都市を結んでおりますが、両市の市民間の交流の歴史は 1992 年までさかのぼり、日仏交流イベントを年間複数開催するなど、大変活発な交流を続けています<sup>2</sup>。また、パリ事務所では、ナント市と新潟市のような活発な姉妹都市交流について、ナント市の日仏交流団体「アトランティック・ジャポン」からオリヴィエ・ドルーアン (Olivier Drouin) 氏から話を伺っています (その様子は CLAIR メールマガジン vol.30 (2012 年 7 月 11 日) に掲載しています。)。今回は、ナント市とラ・フォル・ジュルネに焦点を当てたいと思います。

### ■ナント市について

ナントは、16 世紀にフランスに併合されるまでは、ブルターニュ公国の中心地であり、華麗な宮廷文化が花開いた場所です。また、ユグノー戦争を終結させるため 1598 年に発せられた「ナントの勅令」でも知られています。16～18 世紀にかけてフランス最大の港であったナントは、1970 年代以降、工場や港の移転で活力を失ったものの、1990 年代以降は、ジャン・マルク・エロー元市長 (現在、オランダ政権の下で首相を務めています。なお、現在市長を務めているのはパトリック・ランベール (社会党) 氏。) の強力なリーダーシップの下で、「文化」を一つの柱とした都市再生のためのプロジェクトを次々と実施し、現在、ナントは「文化都市」として欧州の中でも注目を浴び



<sup>1</sup> ナント (Nantes) 市は、ロワール川が大西洋に注ぎ込む河口近くの町である。また、ペイ・ド・ラ・ロワール (Pays de la Loire) 州の州庁所在地であり、ロワール＝アトランティック (Loire-Atlantique) 県の県庁所在地である。なお、人口は 282,047 人 (2011 年、仏統計局)、面積は 65.2km<sup>2</sup> (2011 年、仏統計局) である。ナント市の紹介は『世界の地域から』「自治体国際化フォーラム」174 号 (2004 年 4 月号) にて紹介している。

[http://www.clair.or.jp/j/forum/forum/pdf\\_174/08\\_chiiki.pdf](http://www.clair.or.jp/j/forum/forum/pdf_174/08_chiiki.pdf)

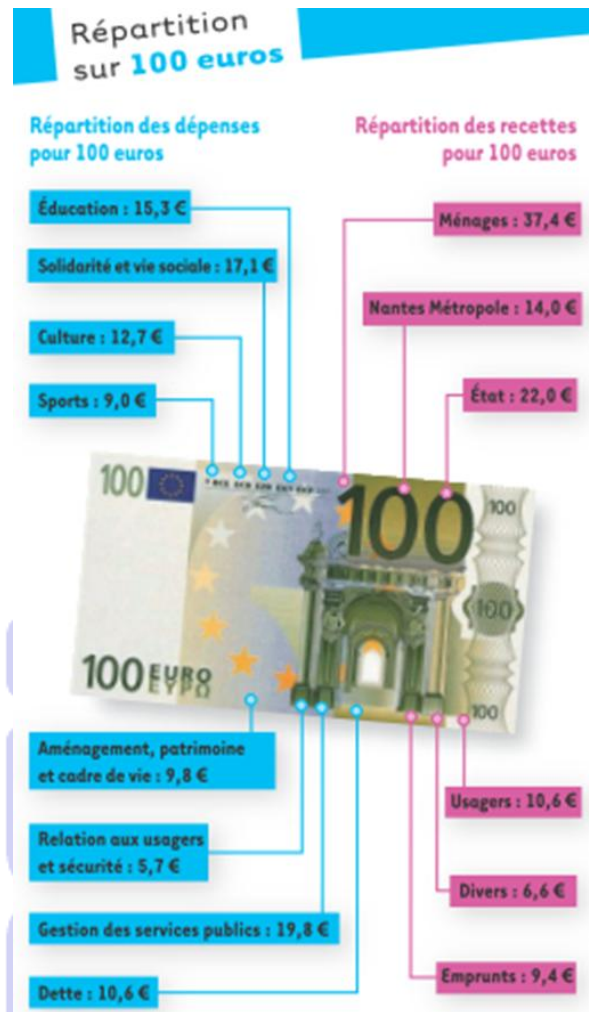
<sup>2</sup> 篠田新潟市長は 8 月 26 日から 9 月 1 日までフランスを訪問されており、姉妹都市のナント市への訪問、「第 3 回日仏自治体交流会議」(開催地: シャルトル市、コンピエーニュ市、パリ市) への出席のみならず、元市長であるジャン・マルク・エロー首相との意見交換もされている。

ています。

### ■文化政策の予算に占める割合は 12.7%

ナント市がどれだけ文化政策に力を入れているかを示すものとして、2012 年の同市予算に占める文化政策に関する予算の割合が 12.7%という数値があります（右図はナント市が公開しているHPから一部抜粋）。2012 年同市予算が全体で 4 億 8,220 万ユーロ<sup>3</sup>となっているため、単純に計算すると約 6,000 万ユーロを文化政策に関する予算として使っていることになります。

また、ナント市文化局の人数は市の職員の約 10%にものぼっていますが、同市の文化政策には職員だけでなく、多くの市民、団体を巻き込んでおり、それが「文化都市」としての現在の成功につながっていると考えられます<sup>4</sup>。



予算を 100 ユーロに換算した時の割合(ナント市 HP)

### ■ラ・フォル・ジュルネについて

ラ・フォル・ジュルネ（「熱狂の日」という意味）は、フランスのナント発祥で、フランス最大級のクラシック音楽の祭典です。ナントでは国際ピアノフェスティバルなどが開催されていましたが、これを運営していた CREA（アソシオン法にもとづいて設立された協会）が、ルネ・マルタン氏の発案により、ナント市からの助成を受けて 1995 年から音楽祭を創設しました（創設者であるルネ・マルタン氏が芸術監督を務めています）。地域密着型の音楽祭というコンセプトを打ち出し、1 月下旬から 2 月上旬頃にかけて、ナントの国際会議場（シテ・デ・コングレ）等の複数の会場で、コンサートを数多く、一斉に開催しています。また、ファンを獲得するための工夫も明確で、①低料金にすること、そのために②一回の演奏時間を短くすること、③複数の演奏会を同時に行うことで選択肢を広

<sup>3</sup> 経常予算が 4 億 320 万ユーロ、投資的予算が 1 億 2280 万ユーロであるが、4380 万ユーロが経常予算から投資的予算に移転しているため、合計で 4 億 8220 万ユーロとなる。

（ 403,200,000 + 122,800,000 - 43,800,000 = 482,200,000 ）

<sup>4</sup> その例として、メディアが選ぶ「最も住みたい街」で常に上位に選ばれている。例えば、2004 年には米国の「タイム」誌が選ぶ「欧州で最も住みやすい都市」で 1 位に選ばれ、またフランスの「ル・ポワン」誌では 2003～2008 年の 6 年間で 3 度、「住みたい街」1 位に選出されている。

げることなどが挙げられます。

## ■日本でのラ・フォル・ジュルネの広がり

今回、ラ・フォル・ジュルネの開催にあわせて現地ナントの視察に訪れたびわ湖ホール<sup>5</sup>のご担当の方から話を伺うと、従来からびわ湖ホールで行っているオペラ等の公演では、東京や京阪神からの来場者が比較的多いのに対



写真提供：公益財団法人びわ湖ホール

して、ラ・フォル・ジュルネでは、地元

の家族連れ等が気軽にいらっしゃってクラシック音楽に親しまれているとのこと。また、ラ・フォル・ジュルネを通じて地域の活性化に一層寄与できるよう、地域の自治体などの更なる参画を求めているとのこと。

ラ・フォル・ジュルネはナントを発祥として世界各地に広がっています。海外では、ポルトガル・リスボン、スペイン・ビルバオ、ブラジル・リオデジャネイロ、ポーランド・ワルシャワなどでこれまで開催されてきました。そして、日本でも、東京（主催：東京国際フォーラム）、金沢（主催：ラ・フォル・ジュルネ金沢音楽祭実行委員会）、新潟（主催：ラ・フォル・ジュルネ新潟「熱狂の日」音楽祭実行委員会）、大津（主催：びわ湖ホール）、鳥栖（主催：ラ・フォル・ジュルネ鳥栖「熱狂の日」音楽祭実行委員会）と、各地で開催されています。

今後、日本でも益々、フランス発の音楽祭が盛り上がることを願っています。

(西村所長補佐 総務省派遣)

<sup>5</sup>滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールは、オペラやオーケストラ公演向けの大ホール（1844 席）、演劇やダンス向けの中ホール（800 席）、室内楽向けの小ホール（323 席）を備えた、滋賀県が設置した劇場で、1998 年の開館以来、公益財団法人びわ湖ホールが管理受託している。2006 年から指定管理者制度が導入され、公益財団法人びわ湖ホールが指定管理者として管理・運営を行っており、「人々、創造、地域、未来への貢献」を基本方針とした中期経営計画のもとで、自主制作のオペラを中心として、年間 200 以上の公演を行っている。公益財団法人びわ湖ホールは、地域に貢献する事業のひとつとして、2010 年からラ・フォル・ジュルネびわ湖「熱狂の日」音楽祭を主催し、次回（2013 年 4 月）で 4 回目となる。

びわ湖ホール HP：<http://www.biwako-hall.or.jp/>